



## 学校での日本語、教科学習、生活支援の取り組み

“光陰矢の如し”とはよく言ったもので、2022年も12月の師走となりました。夏以降の取り組みについて記事にさせていただきます。

会員の皆様の支援をいただいて取り組んでいます「外国籍児童・生徒や日本語を母国語としない児童・生徒への日本語・教科学習支援」についてです。

その取り組みの一つ、舞鶴市からの委託事業の「舞鶴市内小学校、中学校での日本語や教科学習、生活支援」を行う取り組みも、2学期が終わろうとしています。

今年は報告しておりますように、4小学校で1年生から6年生までの児童8名、中学校2校で2名の生徒の支援を行っております。その国籍は、フィリピン、中国、ベトナム、セルビア、アメリカと多岐にわたります。そして、支援・指導に当たっている児童・生徒たちの日本語の読み書きも、全くできない段階から、今では、日常会話ではほぼ困らない段階まで、様々なレベルにあります。

公用語として英語が話せる児童・生徒とは、比較的スムーズにコミュニケーションが取れて、支援・指導が進みますが、そうでない児童・生徒とは難しいので、皆さんの会費で購入しましたポケットトークや個人のスマートフォンの翻訳機能を使って、支援を始めています。学校の授業では、日本の地理や歴史を含めて、専門用語が次々と出てくるので、学習を理解し、それについていくのは大変です。しかし、支援生徒たちは、別室で学習しながら、英語やポケットトークを使ってコミュニケーションが取れると、嬉しそうに笑ったり、うなずいたりして学習に熱心に参加しています。

ポケットトークの使い方もすぐに理解し、自分が話したいときはそれを指さして受け取り、母国語から日本語に変換し、こちらが「分かったよ」とうなずいたり笑ったりすると、本当にうれしそうな笑顔で更に話しかけてきます。

日本語で会話が通じるようになると、やがては自分の抱えている心の中を言葉で出してくることもあります。小学生低学年でもこんなことを考えているのだなあ！日本のこの年齢の子どもたちは、はたしてこれほどのことを考えるかな？と、こちらが考えさせられることがあります。

日本の学校や地域で日々、日本語で生活している外国籍児童・生徒たちは、その性格や友人関係にもよりますが、予想を超えて日本語会話力は定着し、1年もすれば日常会話はほぼ問題なくできるようになります。

しかし、いつも報告しておりますように、学校での教科学習の内容は日常会話とは大きく異なります。特に最近気がつくのは算数（数学）に関する「九九」です。「九九」の計算ができない

児童・生徒が本当に多いのです。外国籍児童・生徒の掛け算は、九九を順番に足し算として計算していることが多いのです。

例えば日本では、

$5 \times 1 = 5$  (ごいちがご)、 $5 \times 2 = 10$  (ごにじゅう)、 $5 \times 3 = 15$  (ごさんじゅうご)、と覚えます。

ところが、これをある国では足し算で覚えているのです。

$5 \times 1 = 5$ 、 $5 \times 2 = 10$  ( $5 + 5 = 10$ )、 $5 \times 3 = 15$  ( $10 + 5 = 15$ )、.....

これでは、暗記できていない生徒は、順番に加算して行って答えを出します。ですから、小学生の中学年(3, 4年)以降で、2桁以上の掛け算や割り算となると、時間がかかったり、答えを出すのに相当の時間がかかったり、答えを出せなくなります。

$25 \times 16 = \dots\dots\dots???????$        $234 \times 362 = \dots\dots\dots???????$        $350 \div 25 = \dots\dots\dots???????$

そして、小学校高学年での円周( $2\pi r$ )、円の面積( $\pi r^2$ )、円柱の体積(底面積 $\times$ 高さ $=\pi r^2 \times$ 高さ)、角柱の体積(底面積 $\times$ 高さ)等の計算になると、まったく分からなかったり、回答を得るのに本当に時間がかかったりします。

ですから、特に外国から来日した児童・生徒への算数(数学)の支援・指導では、いかに早く日本式の「九九」を理解させ、正確に暗記させ、使えるようにさせるか、その重要性を痛感しながら支援に当たっている毎日です。



### 聖母訪問会(私たちの協会による自主的学習支援の教室)の清掃、および周辺の草刈り、老木の伐採



夏以降、私たち京都北部国際支援ネットが青少年への日本語や教科学習支援に無料でお借りしている聖母訪問会の、学習教室の清掃とその周辺の草刈りを2回実施しました。その折、併せて、教会の玄関から教室までの車道や歩道の上に、老木(桜)がいつ倒木するかわからない危険な状態になっていて、通行しないようにコーンが置いてあったので、Hシスターさんたちとも相談したうえで、数メートルの大木をチェーン



ソーで切りました。また、併せて、シスターさんたちが耕作しておられる野菜畑も手鋤でされているので、櫻井総務に小型耕運機を持参してもらって耕してもらいました。



教室には舞鶴市の委託事業で支援を行っているフィリピン籍児童・生徒3兄弟妹も毎週土曜日に参加しています。この子どもたちや家族をバックアップされているI商会の顧問(旧社長)のIさんが、聖母訪問会での学習会には、毎回3兄弟妹の送迎をしておられます。ありがたいことに、写真を見てもらったら分かりますように、いつも清掃の時には参加していただき、大型の廃棄物運搬用トラックに乗ってこられ、これら伐採した老木や雑木を無料で廃棄していただきました。有難うございました。

今年も、学習に参加している生徒・児童やその保護者、会員、理事(総務)を含めて、多くの参加者によって、2回の清掃や草刈り、老木の伐採を行うことができ、学習教室やその周辺は、本当にきれいで安心・安全な場所に整備されました。また、手鋤で耕されていた野菜畑も櫻井総務の耕運機で耕してもらって、協会のシスターさんたちからも丁寧なお礼をいただきました。参加いただきました皆さん、本当にお疲れさまでした。有難うございました。





## Sさんの進路内定の吉報の報告

(後野国雄)

Sさんは4年前にフィリピンから弟と一緒に日本にやってきました。来日する数か月前はフィリピンの中学校3年生で、フィリピン籍のお母さんと日本籍のお父さんが、私が以前に所属していたNPO法人の事務所に来られ、「数か月したらフィリピンの中学校を卒業するが、舞鶴に来て日本語や学習支援をしてもらえるだろうか」と相談されたのです。

その当時、京都府では様々な事情によって学習についていけない青少年たちに対する取り組みが行われていて、私の信頼する友人たちがその支援組織の中心にいたので、「できると思います」と答えました。お父さん、お母さんは、この言葉を聞かれて数か月後、中学校を卒業したSさんと中学生の弟をフィリピンから日本に呼び寄せられたのです。

ところが、この年から京都府の支援方針が急に変わり、極めて限られた青少年への支援だけが対象となり、一般的な青少年の学力支援や外国籍の青少年たちへの日本語や教科学習支援はその対象に含まれなくなったのです。

これを知った私たちは、驚愕の思いでこの知らせを聞いたのでした。勿論、このことを知られたSさんの両親は途方にくれられ、「先生、どうしたらいいのですか、わかっていたら、フィリピンの高校に行かせました」と、お母さんは涙ながらに言われました。私たちも、いくら京都府の方針が急転したとはいえ、申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

そして、このことが、私たちの「京都北部国際支援ネット」を新たに立ち上げて、外国籍児童、青少年への、日本語だけでなく、教科学習への、今以上の支援に本格的に取り組むきっかけを作ってくれたのです。

そして、会場費や光熱費を出すだけの経済的余裕のない新たな私たちの団体の学習支援教室として、冷暖房やトイレ、学習施設の設置された教室を無料で提供していただいているのが、会員のHシスターさんのおられる聖母訪問会なのです。

またSさんの家が、この教会のすぐ隣にあり、彼女は本人も言っている通り、日本に来た当時は挨拶くらいでほとんど日本語の「読み、書き、話す」ことができなかったのですが、本人の努力とご両親の愛情、そして私たちの週3～4回の支援の中で、来日して学習を始めて8か月後くらいに日星高校に合格し、その後も本人の素晴らしい努力と私たち支援ネットの3年間の支援の中で、極めて優秀な成績でもって指定校推薦を受けて、一番入りたかった舞鶴市内の医療センター看護コースに合格内定したのです。

私たちの知る限りでも、このような生徒は本当に珍しく、私たちが、4年前に新たに今の団体を立ち上げて取り組んできて、進路が決まる初めての生徒さんです。心からお祝いを述べたいと思います。

Sさん、おめでとう。患者さんに心をもって寄り添い対応できる看護師を目指して、今後もしっかりと学習を続けてください。

こんにちは。高校3年のSです。この度は舞鶴医療センター附属看護学校に合格することができ、とても嬉しいです。日本語の勉強をし始めて、高校受験のために勉強していた頃から、現在高校生活があと少しで終える時期まで支援していただいた方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

国雄先生とまゆみ先生に出会えて本当に幸せです。お二方のおかげで、素晴らしい方々に出会えたと思います。S先生には大変お世話になりました。私は元々数学が苦手で、数学の基礎から教えてほしい部分まで、全部教えて頂き、ありがとうございました。現在もお世話になっているY先生とT先生には日本語の勉強に限らず分からないことや気になることについて、いつも丁寧に教えていただき、ありがとうございます。

幼い頃からの夢に一步近づくことができ、モチベーションが更に上がりました。看護師になるという目標を必ず達成して、自分に負けないようにもっと頑張ります。これからもよろしくお願いします！

(櫻井伸広)

彼女は、京都北部国際支援ネットを後野さんが立ち上げるきっかけにもなった生徒である。彼女が日本で高等学校に入り、看護師になりたいという夢を持っているという話を聞いたのは三年前である。日本に来て1年では、日本語の習得も難しいだろうし、ましてや高校教育を受けるのは至難の業だと思っていた。しかし、後野さんを始め、多くの支援のおかげで、日星高校受験までたどり着いたのである。彼女の実力を見るために、日星高校で本試験の前に相談会を持ったが、その時の日本語力は『大丈夫です』と言い切れるものではなかった。彼女は相談会の後、それまで以上に日本語学習に力を入れ、本試験で合格を勝ち取り、みごと日星高校に入学できたのである。

日星高校に入学できたからといって、その後の学習は平坦な道のりではなかった。私は彼女

の国語を教えていたが、一年生の頃は、随分苦勞していたようである。学校として彼女一人に特別な配慮はなかなかできなかったが、彼女は持ち前の真面目さと探究心とで、日本語だけでなく、いろいろな教科に熱心に取り組んだ。分からないところがあれば教科担任に聞きまくっていた。幸い、当ネットで入学前からの学習援助を継続でき、学校で理解できなかったところはそのままにせず成長できた。Yさんは、社会の教科書を英訳して彼女に教えてくれた。数学や理科もSさんや後野さんがフォローしてくれたし、国語はTさんがスカイプを使ってリモートで指導してくれた。そうした援助に応じて彼女も一生懸命取り組み、総合コースの中では上位の成績が取れるようになっていった。

日星高校は彼女にとって初めての日本の学校になったわけだが、幸い、クラスメートにも恵まれ、いじめに遭ったりすることもなく、楽しく充実した日々が過ごせたのではないだろうか。遅刻もほとんどなく、優秀な生徒であった。

進路を決めるに当たり、彼女は迷うことなく、『舞鶴医療センター看護学校』を選んできた。本校は『舞鶴医療センター看護学校』の指定校枠を持っており、彼女は見事指定校推薦を認められ、受験することができた（もちろん指定校が認められなかったときに備え、国語の問題にも取り組んでいたが）。そして、合格できたのである。4月から、晴れて『看護学校生』である。

今、日星高校には、彼女の他に、二年生で、当ネットで支援を継続的に受けている生徒が1名、中学校で支援を受けた経験を持つ生徒が1名在籍している。義務教育の時には、年間120時間の日本語支援が公的に受けられるが、残念ながら高校ではその制度はない。日星高校では、今上記の中の1名が中学校の時の公的支援に関わっていたYさんの援助を週1時間受けているが、あくまで特例であり、継続が約束されているものではない。当ネットの支援が今後もやはり重要になってくるものと思う。



## 英会話教室の報告です

(後野国雄)

令和元年9月に「京都北部国際支援ネット」を発足させ、それからすでに4年、皆さん方と一緒に楽しく、少しずつ取り組みを広げてきています。

この国際支援ネットの代表を務めています私は、この「支援ネット」を立ち上げる時、事務局を自宅に置き、取り組みに集中するため、お世話になっていたNPO法人を退会させていただきました。その折、担当していた「英会話教室」2クラスを引き継いでいただく講師が見つからない中で、受講生の皆さんからのご希望もあり、引き続き私とNativeが講師としてNPO法人から独立し、教室を継続してきました。そして、水曜日のクラスは15年を超え、火曜日のクラスも7年を過ぎるのではないかと思います。

児童・生徒、市民への日本語や教科学習支援、外国籍市民との交流、そして様々な支援を広げていく中で、この英会話クラスの受講者の多くの方も会員となってくださり、支援や取り組みに参加していただいています。その中には、家族の皆さんまで会員登録いただいている方も

おられ、本当に心強い限りです。

火曜日の英会話受講者12名の皆さんは、全員が「支援ネット」会員として、様々な形で支援していただいています。今回はまず火曜日の英会話教室について、紹介をしたいと思います。

毎週火曜日10時半から12時まで1時間30分、12名の受講者と講師（後野）とNさん（フィリピン出身）との間で、基本的に英会話と文法を中心に、レッスンを行っています。現在、Nさんは母国に一時帰国していますが、Nさんと一緒にレッスンを進めるときには、できるだけレッスンは英語で進めていきます。

挨拶から始まり、2人ペアで、最近1週間の様子や思っていることなどについて英会話（Daily Conversation）を5～6分行います。その後、週交替で1人が生活や思うこと、経験したこと等について英語スピーチを行い、他の受講者がどれくらい聞き取れたのかペアで確認します。その後、英文スピーチの構成やイディオム等について、発表原稿と説明資料を講師から配布し、解説しながらみんなで学習します。

次に英検準2級～1級くらいのPop Quizを前の週に配布し、自宅で回答されてきた問題についてクラスで答え合わせをします。ここまでの30分～40分かかります。その後、テキスト（SIDE by SIDE Book 2）を使い、外国の人たちとコミュニケーションが取れるように、英会話学習に入ります。英語が聞き取れ、話せるようになるためには、日本語と同じで、英文法をきちんと学習する必要があります。この人気のあるテキスト（すべて英語で、日本語訳、説明は一切ない）は、その目的に合った人気のあるテキストなので、このテキストを使って学習を行っています。参考例に、この12月に学習している内容は、例えば、

## Chapter 3

### Count / Non-Count Nouns

### Imperatives

### What Would You Like?

#### FOCUS

- ・Introduction of Partitives(限定詞)  
a bowl of      a glass of      a cup of  
an order of      a dish of      a piece of
- ・ Ordering Food in a Restaurant

#### Model Conversation.

A. What would you like **for dessert**?

B. I can't decide. What do you recommend?

A. I recommend our **chocolate ice cream**. Everybody says **it's** delicious.

B. Okay. Please give me **a dish of chocolate ice cream**.

A. What would you like for breakfast?

B. I can't decide. What do you recommend?

A. I recommend our scrambled eggs. Everybody says, they're out of this world.

B. Okay. Please give me an order of scrambled eggs.

この Model Conversation を使いながら、上記の Partitives (限定詞) を使った練習問題に取り組み、一部テキストを見ないで、会話できる方向に進めています。

12名の受講者の皆さん、仕事を持たれたり、あるいはそれぞれがお忙しい中ですが、本当に英会話が好きな方たちばかりで、もう家族のような関係で、楽しく教室を運営させていただいています。ここに写っている写真は、11月下旬の教室で受講者の了解のもとに取りました。この日は、Language Exchange (言語交換) として連絡を取り合っておられる受講生のKさんの友人Fさん (オーストラリア) が舞鶴に来られたので、一緒にクラスに参加されました。いつも American English を聞きなれている生徒さんにとっては、イギリス独特の発音を含む英語は、難しい中にも本当に新鮮で、充実して刺激的な楽しい1時間半でした。私も、久しぶりに大好きなニュージーランドに行って話しているような感じがして、楽しかったです。



2023年が今年よりも良い年になりますように！！

(文責：滝花、後野)

この「つなぐ」へのご意見、ご投稿等は下記へお寄せ下さい。

後野国雄 携帯TEL 090-8887-5921

滝花利朗 自宅TEL 0773-44-1734

メール [t.takihana@nike.eonet.ne.jp](mailto:t.takihana@nike.eonet.ne.jp)